

第17期町田市立図書館協議会

第4回定例会議事録

日時：2018年1月15日（月） 午前9時30分～午前11時00分

場所：町田市立中央図書館 6階中集会室

■出席者

（委員） 瀧桂子、坂西圭子、大石眞二、清水陽子
鈴木真佐世、石井清文、池野系、小西ひとみ
若色直美（計9名）

（館長） 近藤裕一

（事務局） 中嶋真（副館長）、二方光輝、陣内和之

■欠席者 山口洋

■傍聴者 0名

第17期図書館協議会 第4回定例会次第

《議事録確認》

第3回定例会議事録

《館長報告》

1. 平成29年（2017年）第4回町田市議会定例会

- ・一般質問 熊沢あやり議員

「子育て支援施策について（6）学力向上を目指して～読書習慣～」

12月6日（水）

- ・文教社会常任委員会

12月13日（水）

2. 教育委員会

第9回 12月14日（水）

<報告事項>

- ・中央図書館エレベータ改修工事及び中央図書館蔵書点検について

（別添資料1）

- ・「本をめぐる美術、美術になった本～近代日本の装幀美本からブック・アートまで」展の開催について（文学館）

（別添資料2）

第10回 1月12日（金）

<報告事項>

- ・「編集者・谷田昌平と第三の新人たち」展実施報告について（文学館）

（別添資料3）

3. その他

- （1）第11回町田市生涯学習審議会（12月20日（水））

（別添審議会配布資料抜粋）

- （2）第14回町田市子ども読書活動推進計画推進会議（1月23日（火））

- （3）地域館視察（1月23日（火）午後、2月は日時未定）

- （4）平成29年度東京都多摩地域公立図書館大会

（2月6日（火）～8日（木）の3日間）

- （5）第32回団体登録利用者懇談会（2月8日（木））

- （6）2018年度町田市立図書館嘱託員選考

《委員長報告》

《協議事項》

《その他》

■議事録

○清水副委員長 では、定刻になりましたので、第17期図書館協議会第4回定例会を始めさせていただきます。

今日は山口委員長がお休みですので議事進行をさせていただきますが、不慣れですので、どうぞよろしく願いいたします。

あと、瀧委員と……。

○中嶋副館長 坂西先生は公務が終わってからいらっしゃいます。瀧委員は伺っていません。

○清水副委員長 では、このまま続けさせていただきます。

議事録の確認ですけれども、第3回定例会議事録は、今までに皆さんのところにメールで確認させていただいていると思うのですけれども、このまま確定してよろしいでしょうか。

では、確定いたします。公開の方をよろしく願いいたします。

では、館長報告を館長、お願いいたします。

○近藤館長 それでは、館長報告を行います。資料をご覧ください。

1点目が平成29年（2017年）第4回町田市議会定例会の一般質問についてでございます。一般質問は、熊沢議員から、子育て支援施策についての一項目として、「(6)学力向上を目指して～読書習慣～」ということでご質問がありました。内容としては、小さいうちから読書に親しむということは、その後の学力の向上とか、子どもの成長にとって大きなプラスになるということで、それを習慣づける1つのツールとして読書手帳とか読書通帳というものを導入してはどうですかという質問でした。回答といたしましては、今、よその市ではやっているのは読書通帳というような形ですけれども、お子さんが読んだ本について、題名とか簡単な感想を書くことができるものを導入している自治体が増えていることは承知していますということ。あと、議員がおっしゃったとおり、読書の習慣を身につけることはお子様の成長にとって大きなプラスになるということは当然のことですという前提のもと、町田市の図書館につきましても、そういったことを検討していきたいということをお答えしています。

具体的に、以前、システム更改のときに、ホームページで記録を残したい人は残せるという機能はありましたけれども、あれは正直言って大人の方向けだ

と思うのです。お子さんが使いこなすのは中学生とかにならないと難しいということもございますので、そういったことを検討していきたいということをお答えしています。これが一般質問についてです。

次の文教社会常任委員会については、図書館に直接かかわる案件はございませんでした。ただ、情報として町田市民文学館ことばらんの存続を求める請願が出されておりました。請願項目としては、「町田市民文学館ことばらんどを、今後も現在の場所に存続させること」という請願でございました。審議いたしまして、結果として、委員会、本会議とも採択という形になっております。

2点目、教育委員会でございます。この間2回ありましたけれども、12月14日（水）の回につきましては、図書館の方では、これは以前この場でも少しお話ししたと思いますけれども、エレベータの改修工事を行いますということと、蔵書点検について報告いたしました。

資料1をご覧ください。まず、資料の一番下を見ていただきますと図が載っているのですが、エレベータの改修工事は1月29日（月）から2月26日（月）までの29日間を予定しております。その間、最初の1月29日から2月5日までの1週間については、中央図書館の蔵書点検を行うということで休館という形にさせていただきます。その後の2月6日から26日まではエレベータは使えないのですが、図書館は開館していくということにしております。

まず、エレベータの改修工事ですが、内容としては、この図書館ができてから一度も改修とかをしていませんので、最新の制御盤並びに巻き上げ機等に交換するといったことや二重ブレーキ等の新たな安全装置の設置を行っていきます。

それで、この図書館は、エレベータとエスカレーター、階段で館内を移動する訳ですが、例えば車椅子の方とかエスカレーターに乗れない方がいらっしゃるので、そういった方々への対応ということで、2の(1)をご覧ください。今、2階については案内カウンターを設けていませんけれども、工事期間中は2階のエントランスにシルバー人材センターの職員を配置して、工事中の利用案内とかサポートを行ってまいります。例えば車椅子の方がいらっしゃって、予約の本を受け取るだけでいいという場合については、予約の本をとり

行って手続をしてお渡しするというをやりますけれども、館内でご本をご覧になりたいといった場合は、実はこの建物はホテルと一体ですので、ホテルのエレベータを利用してこちらに入ってくることができます。そういった形で、シルバー人材センターの職員と一緒にいってご案内して図書館の方に入ってくる。戻られるときは逆のコースでという形を考えております。ただし、6階で映画会とかを行っているのですけれども、6階ホールでの事業については、この間はお休みにしたいと思っております。

あと、蔵書点検は、中央図書館の本の蔵書は約62万点ございますけれども、実際に今図書館にある資料と図書館システム内の情報を突合して整合性を高めていくという作業になります。そこら辺については、12月15日に広報に載せました。また、12月1日からホームページ等でのご案内をしているところでございます。

また1枚目のレジュメに戻っていただいて、あと、この回は、文学館から次の展示の報告がありました。そちらは資料2「本をめぐる美術、美術になった本～近代日本の装幀美本からブック・アートまで～」展の開催についてということで、1月20日から3月18日までの49日間になります。資料と次のページにチラシを添付してございますので、後でご覧になってください。

それから、1月12日に第10回の教育委員会がございました。図書館の方では特になく、文学館から、この前やっていた谷田昌平展の実施報告がございました。こちらは資料3です。観覧者数は2330人となっております。こちらも資料がついていますので、後でご覧いただければと思います。

以上が2点目の教育委員会の報告になります。

3番、その他ということで何点か報告させていただきます。

1点目は、第11回町田市生涯学習審議会が12月20日にございました。こちらは今、諮問している答申事項について審議している訳ですけれども、その中で全庁的に検討している公共施設再編計画の資料も配られましたので、そちらを添付してあります。先ほどの文学館の資料3の次のページをご覧ください。

1点目が、2017年度の秋から来年9月までの1年間の予定ということでスケジュールが示されております。現在のところ、10月26日と11月28日の策定検討委員会を終了しているところです。その後の状況ですけれども、2月にまた開

かれるということです。3月から4月にかけて1度行いましたけれども、2回目の市民説明会ということで市内10会場で行います。多分同時になると思いますけれども、市民意見の募集も行うという形になっております。3月の議会でその意見募集などの行政報告を行います、この段階ではまだ決定していないということになります。5月の第10回の策定検討委員会で最終案に向けた調整をしていくということなので、ここで3月から4月にいただいた意見等も最後に反映させていくということだと思います。6月に第11回の策定検討委員会を開いて最終案を確認していくこととなります。6月議会で報告していくこととなりますので、当初の予定ですと3月までにはできるというお話でしたけれども、3カ月延びて6月になったということがこのスケジュールで示されています。

次の資料は、図書館のところだけ抜粋ということですが、今まとめている公共施設再編計画の今のところの中身になります。Cということで、この資料の20ページになりますけれども、図書館の実態・課題ということで、施設概要とか実態と課題ということが書かれております。こちらについては、以前示されたものと変化はないと思います。

次の21ページの現状・課題のまとめということで、これも変化はないと思いますけれども、図書館サービスは行政で行うサービスということは認めていますけれども、一方で、配置が近接しており、集約の検討も可能ですということが記載されております。あと、予約の受け渡し分は増加しているけれども、貸出冊数は減少している傾向にある、サービスの利便性向上だけでなく、多くの方が図書に触れる機会を新たに創出できるかが課題であるということが述べられています。

22ページが再編後のイメージということで、他市の事例等が載っているところになります。

23ページは今後の方向性ということで、これも大きな変化はないのですが、集約化、複合化、多機能化によって建物の総量は圧縮しつつ、本に触れ親しむ機会、本を通じた交流の機会を増やしていきますということ。それから、市民等の活力を生かした図書に関連した新たなサービスにより、図書に親しむ機会や場の充足を目指していくというのを方向性として大きく掲げられて

います。具体的には、やはり配置が近接する図書館は集約を検討していくということ、2つ目が、複合施設でない地域館、単独館は、周辺学校の大規模改修や建てかえの時期を捉えて複合化していくということ、効率的・効果的な図書館サービスの提供について検討するという事になっております。

取り組みの時期ですけれども、これは38年間の長い計画になりますから、それを3つに分けて短期、中期、長期となっておりますけれども、短期については最初の9年間ですけれども、各地域館の方向性を決定する。それは再編対象施設及び再編時期の決定を含んでいくということ。あと、効率的・効果的なサービスの提供について検討する。これは行政経営改革プランで述べられていることです。短期及び中期の再編対象施設の再編に向けて、短期に行うということになれば、その検討・準備を進めていきますし、中期のものも、短期の後半になると思いますが、準備をしていくことになっております。以上が書かれています。

最後に24ページですけれども、こういった内容を踏まえて次の9年間で、図書館は教育委員会に属していますので、今年度と来年度で検討を進めている訳ですけれども、見直し策をまとめて、この協議会からもご意見をいただき、最終的には教育委員会で決定していくというところまでがスケジュールとしては示されているということになります。留意事項としては、学校の複合化とか書いてありますけれども、学校との関係とか、移動図書館の拠点機能があるところをどう考えていくかということ、この辺の留意事項を踏まえた上で検討なさいたいところが、この場での今現在の資料の案の状況になっております。こちらが生涯学習審議会で配られた資料の説明ということで、審議会そのものの内容については、また後ほどにしたいと思います。

2点目が、第14回町田市子ども読書活動推進計画推進会議を1月23日（火）に予定しております。

3点目、地域館の視察を同じ日の1月23日午後にご予定しております。2月の分はまだ時期が決まっておりません。

4点目、平成29年度東京都多摩地域公立図書館大会ということで、これはもう情報提供しておりますけれども、2月6日から8日の3日間、都立多摩図書館で行います。

5点目、これは例年行っていますけれども、第32回団体登録利用者懇談会を2月8日（木）に、今回は中央図書館を会場に開催いたします。

6点目、ご都合でおやめになる嘱託員の方がいらっしゃるので、来年度の4月から新たに採用する嘱託員の応募が終わりまして、22日、来週の月曜日に1次試験を行う予定になっております。

報告は以上でございます。

○清水副委員長 ありがとうございます。

では、今報告がありましたことについてご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。最初に、市議会の定例会のことでご質問、ご意見はありますでしょうか。

○鈴木委員 読書手帳とかはこれから検討ということですがけれども、まだ本当に検討というところなのでしょうね。図書館として、前にもいろいろこういう話は出ていて、それまでは特にこれを導入するとか、そういうことは考えていらっしゃらなくて、今回、熊沢議員が提案されたということで新たに検討することなのでしょう。

○近藤館長 読書通帳とか読書手帳の話はいろいろな新聞などにも載っていますし、話題になっているということはありませんけれども、今までは情報を集めているぐらいでした。いずれという気持ちはありましたけれども、この質問を契機に実際検討していきたいということです。ただ、今、割と新聞などに大きく報道されるのは読書通帳ということで、要するに特殊なプリンターを設置して、いわゆる預金通帳みたいなものに印刷するというのが割とよく報道とかはされているのですけれども、正直、それには一定のコストがかかりますので、とりあえず今の段階で検討しようと思っているのはそうではなくて、例えば手帳という形で紙は図書館が用意して手で記入したり、あるいは紙すらも用意していなくて、ホームページ上でダウンロードして印刷すれば、それができるみたいなやり方をとっている自治体もあるので、そちらの方向を実現に向けて検討していきたいと思っています。

○鈴木委員 清水副委員長に伺いたいのですけれども、学校とかでそういう読書通帳的なものはしたりしているのでしょうか。中学だとあれかもわからないのですけれども、小学校の学校図書館がどうか、効果とか、そういうものがど

うなのかというのがちょっとわからなくて。

○清水副委員長 先生にお聞きした方がいいのかもしれないのですが、中学では科目によって、これについて読書しなさいとかということで読書記録をつくるということはしているのですが、読書についての記録というのはうちの学校では多分やっていないと思います。国語とか総合の時間に、こういうタイトルでこういう本を調べましたという記録はつけるのですが、普通ときは多分うちの学校ではやっていないかと思います。大石委員、いかがですか。

○大石委員 ほとんどの中学校でやっていないと思いますね。いまだに図書カードみたいなものをつくっているのであれば、それが自分の読書記録にはなりますけれども、今全部コンピューターで管理するようになっているので、手でやっているところは私が知る限りは把握していませんね。小学校は冊数を競わせたりするので、やっているとしたら、むしろ小学校かなと思いますけれども。

○鈴木委員 石井委員のところは。

○石井委員 僕は何十年も前からずっとやっていたのですが、それは学校の中だけではなくて、図書館から借りたものも書いていいですよということでやってはきたのですが、小学校では今、大石先生が言われたように、やっているところはまだあると思いますね。小学校もコンピューターを入れてあるので、それを今どう利用しているかというのは私にはわかりませんが。

○鈴木委員 その効果というか、子どもたちはそれで賞品とかがある訳でなくても、それがたくさん埋まるということでたくさん読むようになるようですか。

○石井委員 効果はあるので、さっき館長が言われた中で言えば、ダウンロードすればそれぞれの学校で使えるというものと、それぞれの学校での工夫とか何か少しくつついた状態で提供されれば利用する人たちもいると思いますし、小学校は小学校の中に学校図書館の研究会もあるので、そういうところで働きかければ幾分効果はあって、余り予算も使わないで済むのではないかなという気はしますけれども。

○鈴木委員 学校図書館と図書館の両方でいろいろ借りたものが1つになるというのはいいような気もしますが、どんなものですか。

○清水副委員長 学校図書館の今使っているソフトでは、個人の記録を出そうと思えば出すことができるのです。だから、何を借りましたというのはわかるのです。だけれども、そこには個人の感想とか、評価とか、そういうのは入っていないので、借りたことは記録できるのですけれども、それと同じように、図書館の本を借りたという記録はできても、そこに何らかのプラスアルファがなければ、ただ通帳に記入していただくだけで、読書とつながっていくのかなというのは私は疑問に感じると思います。

石井委員のように、それを周りの大人たちがサポートして、読書とつながるようにするというところまでいっていけば効果はあると思うのですが、ただ通帳に記入したいから本を借りるとか、実際に学校の図書館でも10冊借りたらきれいな個人カードをつくってあげるとかというふうにすると、一生懸命借りてくれるのですけれども、ただ借りればカウントしてしまうので、読書と必ずしもつながらなかったかなという反省もあります。そこら辺は目指すところでいろいろな方法を考えられて、図書館としての取り組みということもあるので、ちょっと落ちついて学校関係の先生たちとも情報交換されて、記入することが必ずしも楽なことではない子もたくさんいると思うので、負担にならないように、目的は本に親しんでほしいことだと思うので、貸出を増やすことを目的にするとちょっと寂しくなってしまうかなと思うので、そこら辺は考えていただければいいかなと思います。

○鈴木委員 今、貸出が自動になってしまっているのも、逆にそういうことで図書館のカウンターで子どもと職員の方とのコミュニケーションになったらいいかな、それで仕事が増えると言われればあれなのですけれども、そういう部分で個人的に何か会話を交わすきっかけになればいいかなという気もしました。

○近藤館長 これに関連して、検討を進めていく訳なのですが、やはりお子さんといっても小学校低学年から中学生まで幅広いので、まず最初の段階ではターゲットを絞ろうと思っていますので、例えば小学校に入る直前ぐらいのお子さんから2年生、3年生ぐらいが使えるようなデザインだったり、何か

喜んでいただく、今、鈴木委員がおっしゃったように、それがきっかけでカウンターの職員と少し話ができるような仕組みが入れられるかどうかも含めて、まずはその辺をターゲットにしていきたいと思っています。それで仮に導入してちょっと見ていって、もちろんもう少し年代が上の子には別のやり方があるでしょうからというのは将来の話にして、まずはそこをポイントにしたいと思っています。

○清水副委員長 貸出が自動になってからカウンターで職員の方と子どもたちが話す機会が減っていると思うので、鈴木委員がおっしゃったように、そういう意味でも何らかの取り組みというのはやっていただけたらいいかなと思います。

○若色委員 小中学校を対象ということですがけれども、乳児ではなくても幼児が絵本に親しむことで、その後、小学校、中学校に行っても本に触れることの楽しさというのは大きいような気がするのです。やはりお母さんの膝の上で本を読んで、それが図書館の人と会話しながら書いてもらってとかということがある楽しみというのは、幼児に関してももっとあってもいいのかなという気はしました。そこからスタートしていただけたら私としてはすごくうれしいなと思うところですがけれども、難しいということであれば、プレとしてというか、最初の試しとして小中学校でおやりになられるということだとしたらいいなと思います。

あと、清水副委員長がおっしゃっていたように、図書館の人と顔を合わせることで子どもたちのいろいろな状況ですとか家庭状況というのも、そこでの気づきというのは多いような気がするのですね。前に図書館にお勤めをしていた友人がいたのですけれども、その友人が、学校ではない時間に毎日来る子どもがいたりとかして、その様子を見られたりとかということもあったりするし、このお母さんちょっとおかしいなと思うお母さんをピックアップして声をかけたりとかという機能もすごく大事な機能のような気がして、触れ合う場があるといいなというのは清水副委員長のご意見を聞いて思いました。

○近藤館長 今言った読書手帳については、ご自身で字が書けるというイメージでそのように言いましたけれども、例えばホームページに書式をアップして印刷してもらって、お母さんたちが書いて記録として残すというのもありだと

思いますし、その辺も含めてちょっと考えます。

今おっしゃった様子を見てというのは、確かにセルフの貸出機になって、以前に比べたら会話する機会は減っているかと思えますけれども、ただ、職員はお子さんとかの様子は見ていますので、今おっしゃったように、確かにあれっと思うような事例もないとは言えませんので、その辺は今後もしっかりやっていきたいと思っています。

○清水副委員長 今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかにありますでしょうか。市議会の方はよろしいですか。請願もいいですか。

では、2番目の教育委員会のことについて、報告事項が多かったと思うのですけれども、何かご質問とかはありますでしょうか。

○池野委員 中央図書館のエレベータの改修工事についてですけれども、この期間に6階ホールでの行事は休止ということですが、毎週金曜日の方は難しいと思うのですけれども、月に1度の映画会などはやはり人気があるものなので、難しいかもしれないのでしょうかけれども、例えば翌月に2回やるとかというスケジュールのやりくりというのはできるのでしょうか。

○近藤館長 その辺もちょっと検討したのですけれども、お子様の映画会は1回、残りの水曜日はおはなし会ということで切り分けているので、映画会をやっておはなし会を同じ回数確保するのは難しいということになりましたので、3月については同じような回数でやらせていただくということで決定しております。

○池野委員 わかりました。

○鈴木委員 この間、エレベータが使えないと、職員の方はどのように本を階を移動させて処理するのでしょうか。

○近藤館長 ホテルといってもお客様の乗るエレベータではなくて、業務用といひますか、従業員が物を運んだりするエレベータを使わせていただくという形になります。要するに、ふだんよりそちらまで横移動してということで時間がかかったり、やはり一番大変なのは地域館に本を運んだり、地域館から本が戻ってきますけれども、その辺がかなりやりづらいのかなということはあると思いますけれども、1台しかないのですどうしようもないということですね。

○鈴木委員 わかりました。

第10回の文学館のことでもいいですか。これを見ますと、昨年度の八木重吉展のときは5003人だったのに対して2330人ということで観覧者はかなり少なかったようです。これについて、直接図書館の方ではなく、文学館の事業ではありますが、私などから思うと、拝見したら内容はすごくいいのですけれども、やはり宣伝というか、チラシなども一見して、谷田さんのことを知らなければ、第三の新人と書いても何だかわからない。もっとチラシで何のこととか、有名な遠藤周作とかいろいろな方の編集をなさった方だったら、何かそういうことがわかるような宣伝をして、知らない人も行ってみようかなと思うような宣伝というのは、これからいろいろなところで来る人が少ないということで再編計画の対象になったりとかする時代に、やはりいかにみんなに知ってもらおうかがすごく大事なのではないかと、この展覧会を見に行ったときにすごく思いました。

○中嶋副館長 今ご指摘がありましたとおり、やはりどうやって人に来ていただくかという工夫が必要であることは文学館も重々認識していきまして、今後工夫はしていきたいと思えます。ただ、やはりメインのテーマは谷田昌平さんですので、そうすると、こういったらなんですかけれども、八木重吉さんと谷田さんだと全国区としての知名度はどうかという、そういう意味では、これは私の感想ですが、5000人に比べて2300人は健闘した方かなとは思っています。

ただ、今後は当然おっしゃるとおり、いかにその中で広告、宣伝というのは、ここではパブリシティという言葉を使っていますが、重要であるとは認識しております。ここにもちょっと出ておりますが、パブリシティは、今回専門的な方が大勢いらっしゃったのが特色であると文学館の方では分析しております。

○鈴木委員 そういう部分でいろいろな方がいらしたのは良かったですが、町田市の人で谷田さんのことを知らない人にも来てもらうというのでは、チラシを見てちょっと行ってみたいと思うようにするというのは、繰り返しますが、大事な事かなと思いました。

○清水副委員長 私もこれを見させていただいたのですけれども、意外とこの方がつくった本を私は読んでいるのだということがすごくわかって、そういう

感想をお持ちの方が多かったのですね。みんなに来てほしいのに、これを見ただけだと自分と距離がある方のような印象を受けてしまうのですけれども、町田市に住んでいるということと、昔読んだあの本をつくっている人だということではすごく身近な人だったと感じた方が私のお友達でも多かったので、そこをもっとアピールしていただくと、町田市の人にはもっと来ていただけたのではないかなと思います。

ほかにありませんでしょうか。

では、その次のその他について、いろいろあるのですけれども、どこからでもお願いいたします。

○池野委員 1つ補足という形で発言しますが、その他の第11回町田市生涯学習審議会の中で、公共施設再編計画のお話があったのです。今後のスケジュールとしても市民説明会の予定があるのですが、たしか第1回目の市民説明会の出席者数が少なかったので残念だというお話も出ていたと思いますので、第2回でぜひ人数がたくさん確保できればというお話がありました。なかなか浸透していないという部分があるようですね。

○清水副委員長 私も行って見たのですけれども、10回やっても聞かれた方が全部で100人程度だったと思うのです。今度は平日の夜、土日ありと書いてありますけれども、いつも平日の夜なのです。10カ所ではやっているのですけれども1回だけで、夜だけしかやっていないので、来ることができる方というのはある程度限定されてしまうような説明会だったと思うのです。行政の方も、そういう状態だということは認識されていると思うのですけれども、また同じことをされるのかなと思うと、知られていないことを知らしめようとしているのだろうかというのは、ちょっとこれだとそのようには思えないような気がしてしまいます。

○鈴木委員 やはり小さいお子さんを持つお母さんというのは夜などは出て来られなくて、同じ地域では1回しかやらない訳ですね。だから、同じ地域で午前中にするとか、夜にするとかというふうに分けて2回とか3回とかすれば、出てこられる人ももっと増えると思うのです。前は知らなかったということもあって参加者は1カ所に10名で、何となくそういうことを前々から知っていたという人たちしか来ていなかったということで、次のときにもっと知らしめ

るといっても、どうやってそれをなさるかというところもあるし、やはり費用とか人が必要でしょうけれども、これだけ大きな問題をするのだったら回数を増やしてやるべきではないかなと思いました。

それから、ここで直接意見を言ってもあれかもわからないのですけれども、図書館やいろいろな方向性とかいうのを、短期を先に決めてというのとは何かちょっと——長期で全体が決まって、図書館でも地域が近いからといって統合するとか集約するというよりは、もうちょっと全体的なことを考えれば、早急に何とか集約する方を先に決めるというのではなく、小学校とか、ほかの公共施設がどうなるかが決まってから地域館や何かをどうするかということと一緒に考えるべきなのではないかなと思うのです。

私が見た鎌倉市などの例では、長期的に考えて中央館の機能をすごく大きくして、地域館は学校やほかのところと統合するかもしれないけれども、それまでは減らさずに修理などをして維持していく、もっと全体的にやっていくということなのです。町田市の場合は、短期でそこを切って、減らしてからするという感じで、学校などはこれから決まっていくようなので、学校だけではなくてほかの公共施設が順番に決まって、地域で1つずつ考えていくのに、先に減らすことがありきというのとは何か順番が違うのではないかなと再編計画の進め方に疑問を持っています。

○清水副委員長 再編計画については図書館もいろいろとお考えになっていることがあると思うのですけれども、施設についての検討がこれから始まっていく訳ですね。

○近藤館長 今お配りした資料は、町田市全体の公共施設再編計画の検討の過程で、それとは別に行政経営改革プラン、今年度から始まった5ヵ年計画の方で図書館とか文学館も今年度と来年度で検討しなさいということが与えられていますので、今年度から図書館でも検討して、生涯学習部全体の大きな話ですから、生涯学習部でも検討して進めています。ということで、来年度中に一定の結論を出さなければいけませんので、時期はこの辺とは言えませんが、先ほどもちょっとありましたけれども、この場で、今こういうことを考えていますということでご意見を伺うことは来年度になってから行おうと思っています。

○鈴木委員 いろいろな計画の時期が合っていないくて、そちらの5ヵ年計画の方が上位であると、そちらが最優先ということで、公共施設はその上位計画に基づく訳ですかね。公共施設再編計画策定検討委員会も進められているけれども、何か手が出せないというか、そちらは上で、市で決めてしまうことというか、検討委員会では決められないということなのですか。

○近藤館長 どちらが上位というのはさておきまして、やはり普通に考えると、市全体の計画が決まって、個別具体の検討に入れば一番よかったのですが、5ヵ年計画のタイミングが2017年度からということで、図書館だけではないですけれども、一定幾つかの部署は先行して検討しているのが実態です。そこが市民の方というか、皆さんの目から見てわかりにくい点であるかとは思いますが。ただ、この計画でもあるとおり、来年度の6月に決まって、その前には結論は出さない。今、図書館とかが検討しているのも2018年度の最後までに決めなさいということですから、そこは一定こちらが決まってから最終的な案はつくれるということが形上は担保されているのかと思いますけれども。

○鈴木委員 どちらが先に決まっているのですか。

○近藤館長 公共施設再編計画は来年度の6月、だから今年の6月に決定されますね。先行して検討はしていましたが、それを見てから最終的なものを、例えば図書館なら図書館のことは決められるので、ちょっとわかりにくい点ではありますが、時系列としてはおかしくないというか、担保されているのかと思いますけれども。

○清水副委員長 何かわかりにくい。私たちがこれだけわかりにくいのですから、説明も受けていない市民の方たちには全然離れたことになってしまっているのではないかというのがすごく気がかりで、でも市の方針として決まっていくことですので、できることで一生懸命私たちは考えていくしかないと思うのですけれども、この施設ということになったらやはり存続してほしいという請願も市民から出てくる訳ですし、実際に私たちが多から減らしてもいいよねと感じている施設はなかなかないと思うのです。特に図書館はもっと欲しいというのが市民の方たちの率直な気持ちだと思うので、市民の皆さんの気持ちが通じるように、図書館の方でもお願いしたいと思います。

○鈴木委員 (2)の推進会議は、1月23日にここの協議会の代表として、鈴木

が今年度から出ることになりましたので、その場でこういうことを提案したり伝えてほしいということがありましたら、後でお聞きしたいと思います。今は報告の中なので、後でその時間をとっていただきたいと思います。

○清水副委員長 地域館の視察は1月23日ということで、新しく委員になった皆さんは大丈夫ですか。

○中嶋副館長 こちらは今日スケジュールを配らせていただいたこちらに当たりますので、23日の午後という形になっています。大変恐縮なのですが、これは協議会ではないので謝礼は出ないので、そこだけご承知おきいただければと思います。あと、これは北コースになるので、南コースを2月に行います。その日程の調整だけ最後をお願いしたいと思っております。

○清水副委員長 それから、多摩地域公立図書館大会の参加の申し込みは今日まででしたか。

○事務局 そうですね。金曜日メールで差し上げたのですが……。

○清水副委員長 今日、15日までと書いてありました。この前、委員の皆さんには瀧委員から学校図書館のことで情報を入れていただいていたのですが、木下さんの講演が入っているので……。

○鈴木委員 できれば行きたいとは思っているのですが、まだ申し込みはしていません。

○清水副委員長 私もまだしていません。

あとは利用者懇談会と嘱託員の選考について、何かご質問はございますでしょうか。

○鈴木委員 6番の嘱託員の選考は何人とおっしゃいましたか。

○近藤館長 これからもおやめになる方もいるかもしれないので明確に出していませんが、採用予定は若干名ということで。

○清水副委員長 ほかにありませんか。

なければ、次の委員長報告ですが、委員長が今日お休みですので1点、昨年度、皆さんが第1回の定例会からずっと携わってきた図書館評価のことなのですが、図書館評価の報告を12月22日に図書館に提出いたしました。山口委員長と鈴木委員、池野委員、清水と4人で近藤館長と中嶋副館長にお渡ししました。この中で、皆さんもご存じですが、資料費の確保と図

書館利用促進のための活動の必要性、次期図書館評価における項目、指標の見直しという3点を提言いたしております。また後で皆さんに感想をお話ししていただきたいと思っておりますけれども、そのことをご報告させていただきます。

あとは協議事項ですけれども、続けて今の図書館評価のことで皆さんにも感想を言っていただきたいと思っております。その前に……。

○近藤館長 では、協議事項ということで、書いていないのですけれども、図書館評価のことで、今、清水副委員長からお話があったとおり、12月22日に報告をいただきました。今期につきましては、委員が大きく入れかわった中ですぐに評価に入っていて、本当に大変だったと思うのですけれども、ありがとうございました。お礼申し上げます。

あと、今後のスケジュールですけれども、これをいただいて、いつものやり方ですけれども、冊子をつくって公表していくという形で、3月までには公表をしたいと思っております。ただ、もちろんいただいた評価の趣旨、内容そのものを直すつもりは一切ありませんけれども、言い回しとか、もしかしたらと気になる点が少し出てきた場合は、こちらでこう直したいのだけれどもという案をつくらせていただいて、山口委員長に見ていただこうと思っております。今日はお休みなので、その辺はまた後日メールで詰めたいと思っておりますけれども、公表に向けては文言が多少修正になる可能性があるということだけご承知おきください。

もう1つは、評価もとのデータとか、追加で出した資料とかから評価していただいたということだと思っておりますけれども、次の——もう次のことを言ったら早いかもしれないですけれども、やはり評価は大変なので、できるだけまいやり方で手間を省けるところは省くみたいなことはできないかどうかはこちらでも考えたいと思っておりますので、この次をお願いするときに、こんなふうにしたいのだけれどもみたいなことでお話をさせていただくと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○清水副委員長 では、皆さんのご感想、ご意見などを伺いたいと思っておりますので、順番にお話しいただきたいと思っております。石井委員からでよろしいですか。

○石井委員 一番肝心なところでお休みをしまして大変申し訳なかったのですけれども、全体は拝見をしまして、きちんと評価ができたのではないかと

など、今我々がやれるところではよかったのかなと思っています。

○大石委員 初めてかかわらせていただいて、本当に皆さんが非常に大変な労力を割いてやっていただいているということに感謝申し上げます。初めてだったということもあるのですけれども、ほとんどお役に立てなかったかなと思っております。ただ、館長から先ほど次期の評価についてというお話もありましたが、評価のための評価になってしまって、いたずらに図書館の業務を増やしてしまったり、あるいは協議会の委員の業務量が増えてしまうのは本意ではないのかなと思いますので、ぜひこの評価が図書館の改善にどのように役立っているのかということや内部評価のような形で検討していただくと、改善にさらに役に立っていったらいい、今のはやりのワークライフバランスではありませんけれども、業務量の削減にもつながっていくのかなと。やはり図書館員の皆さんの幸せというのが市民の幸せにつながっていくと思いますので、縮小していくということではなくて、ぜひ前向きに改善ができればいいかなと思っています。

○坂西委員 こちらの評価が本当に丁寧につくられているということは大変よくわかりました。結局、活動指標だとか、そういったところだけで捉えられない図書館に携わる方々の苦勞も逆にいろいろなところから伺うことができ、数値にあらわれないものもうまく酌めるといいのになということや、すごく思った次第です。ただ数値に追われるだけでなく、本当の意味での市民サービスは何なのだろうかということやまた違った視点で捉えたり、学校のところでもこれとうまく連動できればいいなということや思った次第です。ありがとうございました。

○瀧委員 2期目ということで、今回の図書館評価のところではやはり一番大きかったのは、資料費が本当に削減されてきているというのがそれぞれの評価に顕著に影響しているということだったと思っています。それも昨年度以上にさらにその削減の影響が大きくて、雑誌ですとか、利用者の方に直接かかわるところに見える形でそれが表れてきているというのが、今回の評価で表にすごく見えたところではないかと思うのです。

3点の提言で資料費の確保ということも挙げていただいているのですけれども、今回私たちが出したもので今後評価の見直しをしてほしいと考えている中

にあるのは、やはりサービスがどういうふうに変わってほしいのかというところにつながるような評価にしてほしいということで、提言に挙げていると思うのです。それが今の評価ですと、私たちは一生懸命やっているし、自分でこの評価を担当することになってみてわかったのが、それぞれ業務でされていることが、図書館の方では一生懸命いろいろなことをされているということもわかったし、それから、委員になって初めて知った仕組みがたくさんあったのですね。それはそれで自分が評価をさせていただいている意味はすごくあるのですが、では、委員ではない人にどういうふうはこの評価が伝わっているかが、思ったとおりの言葉で伝わっていないだろうな、私たちが思っていることが直接伝わっていないだろうなというのはちょっともどかしいところだなと思っています。ただ言葉だけ、文字づらだけではなくて、何か伝える方法がもっとないかなと思ったりしているのですけれども、特に何か提案がある訳ではないのですが、そんなことを今回の評価で感じました。

特に公共施設再編計画にかかわるようなところで私たちが今回感じたことはたくさんあると思うのですね。公共施設再編計画策定検討委員会資料のCの図書館の実態・課題、実態と課題の利用のところに、貸出が減っていて予約資料受け渡しサービスは増加傾向みたいなことが書いてあるのですけれども、その予約受け渡しサービスも、もともと図書館の数が足りないから、その代替として予約受け渡しサービスのようなものを広げていって、例えば地域館がつかないところでそのサービスだけ行っているものがそのまま評価みたいなことになってしまうと、本来の意味合いと違ってしまわないかなということも気になっています。それが今後の評価の見直しのところにうまくつながるように、ぜひ考えていただけるとうれしいなと思います。

○若色委員 私は長い間お休みをいただいていた、評価の方は皆様にお任せ切りで本当に申し訳なかったなと思います。皆様ありがとうございました。病床というか、読ませていただいて、これだけの事業をたくさん図書館の方がやっていたらというのを本当に初めて知った次第です。この協議会をお受けしておいてお恥ずかしいのですが。でも、これはいろいろな私の仲間だったり、来てくれている若いお母さんたちに聞いても、やはり知らないことがすごく多いのですね。こんなにやってくださることがいっぱいあるのだということ

を知らないということは、こんなにもつたいないことだというのはすごく実感しました。

私の活動もようやく始めたばかりですけれども、心にいろいろな悩みを抱えているママが多いものですから、ママたちにお話をして、私と一緒にだったら行くとかというママもいたりするので、提言の利用者促進ということになるのでしようけれども、知っていってもらおうということに自分も協議会委員として努力していきたいなと思った次第です。皆様、本当にありがとうございました。

○小西委員 音訳のボランティア団体ということで、障がい者サービスの部分と、私も子どもが小さいころから、幼稚園、小学校での読み聞かせのボランティアにかかわってきたこともあって、子ども向けのサービスを担当させていただいて、比較的わかる分野のことを担当させていただいたこともあって、そのあたりは少しはわかるのかなと思って取り組んだのですが、やはり知らないことも多く、肝心の障がい者サービスのこともここでボランティアをやっていないということもありますし、私自身が利用者さんとの接点がそれほど多い訳ではないので、図書館のサービスがこうなったらいいというものに結びつくまでに至らない状態で、とりあえず今はわあっといろいろ勉強させていただいた上で出した評価になったなという感じで、概要がふわっとして、何かつかみ損なっている感じが私の中では否めません。もう1年ありますので、せっかく利用者さんを抱えている団体でもありますし、うちの会員がこちらでのボランティアをしている者も多いので、そういった人たちにも実際にどんなふうになっているのかという話を聞いたりして、もうちょっとこうですよみたいな方向性が見えるようになるといいなと思っています。

また、前の協議会のときに図書館で実施されるボランティアさん向けの研修会などをぜひボランティア団体にも告知してほしいというようにお話をしました。後で会の方で一応話は来ているみたいな話は伺っていて、でも、それに対するこちらの会員側のアプローチも、それはそれでこういう方向けだからみたいなスタンスもあったりして、ボランティアの会の立場としても、図書館の方の立場としてもちょっとどこか距離を置いた感じで、いろいろなことをそれぞれでやっているなという感じがしまして、やはり連携という言葉で簡単に言えるかどうかかわからないのですけれども、もう少しつながってトータルなサー

ビスが上がるようなことができないものかなというのがあります。全く今はノーアイデアの状態、その感想だけを持ってしまったのですけれども、もう少しそういった動きにつながるようなこともやればなと思っています。

そして、自分のグループではなかったところの項目については本当に勉強不足で、ほとんど意見を出すことができず、状況も余りよく把握できていないような形で申し訳なく思っています。こちらについてはもう1度よく読み込んで勉強して、いろいろな施策やいろいろな検討会とかも絡み合っているので、もう少し自分の中に情報を取り入れて、来年はもう少しお役に立てるような形でやっていけたらなと思っています。ありがとうございました。

○池野委員 私も今回初めてさせていただいて、今いろいろお話を皆さんから言っていたように、すごく丁寧につくられているなというのが実感としてありました。この報告を出すときにも館長にもお話ししたのですけれども、やはり限られた予算の中ですごくいいことを事業としてやっているのだけれども、それが例えば参加率とかにうまくはね返ってこないとか、いいことは項目の評価の中に書きにくい、書けないとかというのがあるので、その辺のところをまたうまくやって、指標の見直しの中で考えられたらいいのかなとは思っております。まだこちらも勉強しながらやらせていただいたので、本当に知らないことも多かったのですけれども、やはり図書館の職員の方がすごく一生懸命いろいろなことをされているものがうまく評価につながるような形での報告ができればいいのかなと思いました。ありがとうございました。

○鈴木委員 毎回ですけれども、新しい協議会が始まってすぐに外部評価が始まるということがなかなか大変とはいつも思いましたけれども、でも、その評価作業をすることで委員みんなが図書館全体のことがわかってくるという本当に勉強の場でもあって、そこが最初にあって、その後、いろいろなことを検討する上にも自分が出ている立場以外のところもわかるというのも大事なことだなと今回また改めて思いました。

それから、先ほどから皆さんがおっしゃっているように、やはり数字とかそういうことにとられるというところはあるとして、この評価が事業評価的な感じになって、サービス評価ではなく、そこがこの評価を——図書館側で新しい形ができたのが3年前ですか、そういうところがもともとなっているので、ど

うしてもそういう事業に対してどうかということになっているので、市民に対するサービスがどうなのかという部分と、そのためにやっている事業がどうかという部分がなかなか難しいのですけれども、今回、23以降ですか、床面積がいくらで、1㎡当たりのコストがどれだけとか、蔵書何冊で1点当たりのコストがどれだけとか、そういう私たちがどうこう評価できない部分は外していただいたので、そこはよかったかと思います。

そのほかは瀧委員がおっしゃったように、資料費の削減が原因でサービスのひずみがあちこちに出ているということが今回ますますはっきりしましたので、提言の要望の中にも必要な資料費の確保ということは入れさせていただきましたけれども、やはりそこがないと本当によいサービスができないので、図書館にお願いしても難しいことで、それは図書館側から教育委員会、町田市全体に訴えていただきたいと思います。ありがとうございました。

○清水副委員長 いつものことですがけれども、皆さんにはすごく多くの労力を使っていただいて外部評価をつくることができ本当にお疲れさまでした。また、図書館の方にもこちらからの要求にいろいろな情報を提供していただいて、次々といろいろなグループから情報の要求があったと思うのですけれども、丁寧に応えていただき、ありがとうございました。こういう図書館からの情報が得られなければ評価ももちろんできないことですので、対応していただけることはとても大切なことだと思っています。

皆さんからたくさん感想をお話ししていただいたので、私からはそれほどないのですけれども、資料費のことはやはりすごく問題だと思います。今、学校図書館でも借りようと思ったときに、図書館の方から、うんっという顔をされるような状況にまでなっています。重なったら次のところには貸せない状況、資料が足りないという状況になっていますので、これは本当に資料がないからそういうふうになっているので、支援をしていただくにもぎりぎりのところになっているのかなと感じています。

また、新しい本を見ることができないというのもとても困っています。ですから、今、私は町田市以外の図書館で見なければいけないようになっているので、それは一般の方も同じだと思うので、貸出も減ると思います。借りたい本がなければ当然ほかのところから借りるにしても時間がかかってしまうので、

それだったら自分で違うところに行って借りますということになってしまうと
思います。

評価についてですけれども、これも今の第2期で評価のやり方ががらっと変
わったのですけれども、ここまで来てみると、今までのところのよかった点、
悪かった点、それから今回のよかった点、悪かった点というのが見えてきたよ
うな気がしています。前のときには評価をA、B、Cでするようなところがと
てもやりにくいなところを委員の皆さんは感じていたと思うのですけれど
も、逆に内部評価の中でこういうことを頑張りましたとか、自己評価を図書
館でしていたということが、そういうつもりでやっていたのに、こういうふう
になったのだなということがわかりやすかったのですけれども、数字だけ見て
いると、どうしてこうなったかというのはもう1度聞かなければわからないの
で、聞く手間はやはりどうしてもかかってしまう。書類には出ていなくても、
そういうことはどうしても必要になるので、手間的には同じになってしまうの
かなという感じはしました。

今後、これを図書館の方で検討していただいたりとか、今回は評価の中に分
析してくださいとか、図書館ではどうするつもりかという問いかけがあったと
思いますので、それについての検討結果ですとか、分析結果とかというのをま
た協議会のときに報告していただければと思います。

以上です。皆さん、本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。

あと、先ほど鈴木委員からありました子ども読書活動推進計画推進会議につ
いてお願いします。

○鈴木委員 私もここに出るのは初めてで、前に図書館協議会から出ていた委
員の方が今回新しい委員にはなられなかったので私が出ることになったのです
けれども、ここは何かを決定する場所ではないと伺っているのですが、いろい
ろな団体とか市の組織が、今回は子ども読書推進のためにこういうふうに活動
したという報告を聞き合うような場で、年度が新しくなったらこういうふうに
やりますという計画を聞き合うという捉え方でよろしいのでしょうか。

○近藤館長 子ども読書活動推進計画推進会議は年度で2回しか開いていま
せんので、なかなかあれなのですけれども、今回については、今年度行ってきた
ことを各課で、全部は言えませんが特色を中心に話していただいて、そこで

出席の各委員の方から、ここはこういうふうにした方がいいとかアドバイスを
いただいて、これから3月までに生かせれば生かしていきますし、あるいは新
年度の取り組みに生かしていくという形で、基本としては、今、鈴木委員がお
っしゃったとおり、何かを決める会議ではなくて、情報公開しながらよりいい
ものを各課のいろいろな仕事の中で読書活動にかかわる部分をよくしていこう
という趣旨の会議になります。

○鈴木委員 私が出ていない、前の委員が出ていらしたときに、私がやってい
る柿の木文庫で、つるっこという子どもセンターと保育園の両方に行ってい
て、地域でいろいろなおはなし会などの日にちが重ならないように調整してほ
しいということをその委員を通じてお願いしましたら、そこで調整をしてくだ
さったり、そのとき初めて1つの地域で別々の組織の方が話し合いをしてくだ
さったようなことがあって、それはありがたかったのです。決める訳ではない
のですけれども、いろいろな組織がそこにいらしているのです、そういう調整と
いうことはきっとまたしていただけるのではないかなと思いますので、もし何
かありましたらその場でお伝えしたりしたいと思います。今回ではなくても、
年に2回あるそうなので、よろしくをお願いします。

○清水副委員長 では、今回はいいですか。

○鈴木委員 特になければ。

○清水副委員長 ほかに何か協議することはありますでしょうか。

○近藤館長 協議ではないのですけれども、先ほど生涯学習審議会の方で公共
施設の再編はお話ししたのですけれども、審議会の内容を少しだけご紹介しま
す。池野委員、ありましたら補足していただければ。

今、生涯学習審議会の方では今後の生涯学習施策の進め方ということで答申
をまとめているところですが、年度内に答申がまとまる予定になってお
ります。中身をお話しする訳にはいきませんが、町田市の生涯学習を取り
巻く環境をきちんと整理した上で、まずは施策を検討する上での基本的な考
え方ということで、生涯学習は何のためにあるのかとか、生涯学習行政の使命
とは何かということ整理しております。あと、課題を整理していくことにな
っています。

最後、ここが一番重要だと思うのですけれども、今後重点的に取り組むべき

生涯学習施策ということで幾つか方向性が出ていまして、1つはまちづくりの住民参画の促進ということで、そういった面を強化すべきではないかということ。あと、地域、家庭、学校の協働による教育活動の推進といったこともやはり重点として考えていくべきではないかということ。あと、1人1人の学習ですね。生涯学習でそれぞれの学んだことを生かせる社会づくりというのとも考えていく必要もあるかということ。あと、地域文化の創造とか継承、大きくこの4つが今後の取り組むべき学習施策の柱になっていくのかなと思っております。それについてそれぞれ方向性とか、こんなことをやったらどうだみたいな提案も盛り込んでいくような形が今話されております。

○鈴木委員 済みません、4つの最後は何とおっしゃいましたか。

○近藤館長 4つ目は地域文化の創造とか継承の観点です。ここで言えば、背景としては、文学館、自由民権資料館、国際版画美術館とか、個性豊かな文化施設がありますというのが背景にあるのかなと。あと、町田市特性として縄文時代の遺跡とかがいっぱいあるとか、そういったこともあるのかもしれませんが。そういったことを背景としつつ、地域文化の創造、継承という観点を大事にしたいということだと思います。

○清水副委員長 池野委員、何かありますか。

○池野委員 骨子はできているので、次回の委員会ではもう少し具体的な内容を盛り込むという意味で各委員からその具体策を出してもらって、それを今まとめて今度の委員会で話し合うという状況になっています。さっきのお話しではないのですが、ここでも再編計画があつてのずれというのをどうしようかというのは前々から課題になっていて、やはり館長が言われたとおり、一応スケジュール的には1つ担保されているのだけれども、ただ、どうしても生涯学習の審議をしている内容と再編計画の内容がかぶってきますので、そのジレンマというのを各委員は抱えているようです。

○清水副委員長 これが答申されて、それが再編計画やさっきの5ヵ年計画とどういうふうにリンクして、実際に生涯学習を進めることができるようになっていくのかどうかすごく心配です。すごく構想は豊かでも、実際にはもうこの施設はありませんと言われたときに、どういうふうにやっていくのかなというのは、市民としてはやはりクエスチョンマークがいっぱい回ってしまうよう

な感じがすると思うので、これが実施できるように、施設についても深く考えて進めていただきたいなと思います。

○鈴木委員 再編計画についてここで余り館長に申し上げても仕方がないのですけれども、市民意見とかを募集して、それでも調整をしてみたいな程度の感じで本当に市民意見が反映されるのでしょうか。やはり枠があって、それを否定するような、決まった方向と違うようなことが意見の中に出ても、それを十分に検討するような期間もないですね。5月の策定検討委員会で意見募集結果を報告し、最終案に向けた調整をしますというくらいだから、傍聴しましたけれども、たった2時間のうち、1時間は報告なのですね。残りの1時間で検討するという毎回そんな感じなので、その次、1カ月後には最終案を確認しますとなっていて、その間に庁内検討委員会はありますけれども、策定検討委員会はないのです。庁内検討委員会の方が本当は決定権があるのですかね。策定検討委員会の方が報告されたことに対して質問とか意見を言うような感じですね。市民といろいろな立場から出ている方々が策定検討委員会のメンバーですけれども、本当に議論がなされて、市民の意見を反映させられるかどうかがとても心配です。この場所で言ってもしょうがないことなので、済みません。

○清水副委員長 策定検討委員会というか、再編計画のことはそれぞれにみんななかかわってはいるのですけれども、自分たちで直接何かを動かせるところには誰も行ってないという気がしていて、何かもどかしい思いをするばかりで、でもこれが決まってしまうといろいろなことが動いてしまうというところでは間違いないかなと思うので注目している訳です。かゆいところに手が届かないではないですけれども、何かいい方法がないかしらと思っています。何かいい方法はないですか。

○鈴木委員 図書館側は、前の鶴川図書館の存続を求める請願のときにはゼロの状態、これから検討すると館長がお答えになっただけなんですけれども、その検討というのは、最初から再編ありきではなく、ゼロからの検討をされているのでしょうか。8館から6館にというか、5ヵ年計画ではある程度枠が決められている中での検討なのかなと思うのですけれども、どうなのでしょう。

○近藤館長 ゼロからというか、つまり、公共施設再編計画というか、その前

の基本計画の方で集約化とか多機能化という話は出ていたので、それはもう大前提として、こういう観点では検討する必要があるということが1つ。あと、公共施設再編計画も動いていて、こういうふうに出ていますから、どんな方向になっているかというのはわかりますけれども、そういった意味では、集約化、多機能化、複合化とか、そういう観点からの検討はして、それが本当に該当するかどうかということを見ていくことになるのかと思います。一応そういうふうな感じですか。だから、結論ありき、こうなさいという形で検討はしていないというのは当然ですね。

○鈴木委員 検討の結果、例えば減らさない方がやはりいいという結果が出る可能性もあるということですか。

○近藤館長 そこまではちょっと今の段階では言いにくいですがけれども、可能性としてはあるということですね。

○清水副委員長 その可能性にかけて頑張っていきたいと思うのですがけれども……。

○鈴木委員 これ以上のことはここでは申し上げられないということですね。

○清水副委員長 では、ほかに協議事項はないですか。

そうしましたら、本日の定例会は以上ということにしたいと思います。

—了—